

スクールカウンセラーだより 4

コロナウィルスに関係したマスク不足は今では大分解消されてきましたが、マスク不足が話題になったときにすぐに行動に出たのが、山梨県の女子中学生でした。自分のお年玉を使って材料を買い、マスクを作り、いろいろな施設に配布したという話題がニュースに出ました。その後、小学生もマスクを作って近所のお年寄りに配布しているというようなことも話題になったと思います。

今ではマスクの話題は少なくなってきましたが子ども達の想像力や行動力が、社会を動かしたとも考えられますね。

子ども達の自由な想像力や行動力を高めるためには、日々の何気ない会話と、チャレンジ精神を大切にしていける事かなと思います。

行動の結果よりも、そこまでに何を考えたかなということをお願いしたいですね。



親子ファイルを作ってみませんか 2

前回に引き続き親子ファイルです。

楽しかった思い出を絵にしてみよう



楽しかった思い出を話し合うのも良いと思いますが、ときにはいっしょに絵にしても良いかもしれませんよ。絵にしていくなかで思い出がよみがえり、話題も豊かになるかもしれません。絵は心の中を表現するものとも言われます。上手下手を意識せずに、一緒に楽しくお話をしながら描いていくのも楽しい時間になります。また、その事で家族の共有の思いができるかもしれません。

親子で似顔絵を描き合ってみるのも楽しい、ときにはイタズラを加えて

絵は、本当は自由で楽しいものです。ですから子ども達はイタズラ描きが大好きな子も多いです。そこで親子で一緒に似顔絵描きをしてみるのも良いかもしれません。お互いに見つめ合うことで、同じところにほくろがあったとか、親子で似ているところに気がつくこともあるかもしれません。また子どもの成長に気がついたり、お母さんやお父さんの変化に気がつくこともあるかもしれません。普段はなかなか顔を見合うことは無いと思います。少し時間をとってゆっくり顔を見つめる時間をとってみるのも良いかもしれませんね。



一緒にゲームをしましょう。

一緒にゲームをしましょう。といっても、できるだけアナログのゲームです。

そこで「勝った」「負けた」を楽しみましょう。パソコンゲームも良いのですが、お互いにパソコンの画面を見ているので、アイコンタクトはとれません。アナログのゲームだとアイコンタクトをとり、相手の表情を見ながら相手の思いを感じ、次の一手を考えます。

アイコンタクトは相手の気持ちを考える基本です。また、表情を読むことは、相手の気持ちを感じ取る力にもなります。

優しさのベースになる力ですね。また、コミュニケーション力のベースになります。ときにはアナログのゲームを楽しんでみるのも良いと思います。



そして、そのときの気持ちを簡単に「父さんに負けて悔しかった」とか「お母さんに勝てたのが嬉しかった」とか「おじいちゃんのくやしそうな表情が面白い」など、簡単にゲームの記録としてメモに残していくと人の思いに気がつくようになっていくかなと思います。



なりたい仕事は何か？

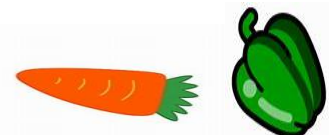
子ども達と「大きくなったら何になりたいかな」と話をしていくと、小さい子は「お花屋さん」とか「サッカー選手」など具体的に話をしてくれる事が多いのですが、高学年になると現実的な問題への不安から「別に！」とか「何でもいい・・・」というような答えが多くなってきます。

少しずつ周りが見えるようになってくると、様々な不安から、自分の将来に対して夢やあこがれが持てなくなり、目標を諦めてしまう子も多くなってくると感じますが、目標がないと行動意欲は高まりづらいです。つらいときや苦しいときにも頑張りが利きません。

夢やあこがれを大切に将来の自分の姿を語ることは大切なことだと思います。もちろん、夢やあこがれは、現実の前では難しいことも多いですが、小さい時期からあまり現実的に考えなくても年齢が上がれば、現実に合わせて少しずつ修正していきます。夢やあこがれだったものが仕事にはならなくても、趣味に活かされることも多いです。お父さんやお母さんの小さかった頃の夢もいっしょに話し合っていくのも良いかと思います。お花屋さんになりたいと行っていた子がいました。その子は農業高校の園芸に進み、課題提出なども頑張っていました。その後、仕事は別の分野の仕事になりましたが、園芸を趣味として楽しく生活しています。

苦手なものはどうしている？

人は誰も苦手なものはあるものです。食べ物でも「人参は嫌い」「ピーマンは食べられない」という子は多いでしょう。また、虫が苦手というお姉さんも多いのではないのでしょうか？そんなとき、どうしているか、親子で苦手なものをそれぞれ考えていき、そんなときどうしているかを考えていくのも良いと思います。



人参が嫌いだから自分が作るカレーには絶対に人参を入れないお母さん、内緒で子どものお皿に自分の分の人参を入れるお父さん。苦手な虫を見つけたときは大声で助けを呼ぶお姉さん、国語の漢字が苦手だから、必死に勉強する子ども達・・・。

苦手なことにどう向かうかは、どうしたら苦手なものとうまくつきあえるかを考えます。苦手な事には近づかない、助けを呼ぶ、とりあえず頑張る・・・などの方法を学びます。それが結構大切な力になります。苦手なものとうつきあっているかを書き出してみると、面白い結果が出るかもしれませんよ。

親子ファイルを書き足していくと成長が見えますよ

2回にわたって、親子ファイルのアイデアを書きました。それ以外にも考えれば沢山あると思います。大切なのは記録として残すことかもしれません。そうすれば、振り返ったときに自分の成長を感じることができると思います。

また、同じ内容を繰り返しやっても良いかもしれません。

きっと前とは違う内容になると思います。それが成長の証ですね。

大切なのは沢山おしゃべりして、楽しく行うことだと思います。

